

研究協力をお願い

昭和大学病院ならびに昭和大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

遠隔 ICU の費用対効果に関する後向き比較研究

1．研究の対象および研究対象期間

2013年3月から2022年3月までに昭和大学病院のICUとHCUならびに江東豊洲病院のICUに入室し治療を受けた成人（18歳以上）患者さん

2．研究目的・方法

近年、重症患者への治療は集中治療室（ICU）で行われていますが、集中治療専門医の不足や偏在により集中治療提供体制は改善の余地があるとされています。この問題への解決策として、昭和大学では現場ICUから離れた場所にいる集中治療専門医が音声画像システムを用い、現場の集中治療スタッフを支援する「遠隔ICU」を2018年から運用しています。2020年までの2年間の診療実績を解析した結果、遠隔ICUによる支援がICUの生存率向上と滞在期間短縮をもたらすことがわかりました（Watanabe, J Intensive Care 2023; 11: 9）。しかし、遠隔ICUの医療経済対効果については未だ明らかではありません。保険料の有効かつ適正な利用が行われるためにも、新しい技術である遠隔ICUの費用対効果を検討することは重要です。

この研究では、ICUに対し用いられている医療保険制度（DPC制度）により包括され解析が行われていない医療コストについて、その変化の程度やコストに影響を与える要因を検討することを目的としています。

3．研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2025年12月31日まで

4．研究に用いる試料・情報の種類

- 入院期間におけるDPCデータ（入院時診断名や各種DPC金額と、入院中の診療行為の内容および出来高にて算定される診療報酬データ）
- 集中治療室の診療体制に関するデータ

- ・遠隔支援センターの診療体制に関するデータ
- ・遠隔集中治療支援システムに集約されている診療データ

5．外部への試料・情報の提供

本研究で取得した診療情報は研究責任者が個人の氏名、生年月日、電話番号、また診療情報等の個人を識別できる情報を削除し、研究用のIDを付与することで符号化します。符号化した診療情報は昭和大学病院の外部から切り離されたコンピューター内にそれぞれ保存され、昭和大学病院および昭和大学江東豊洲病院（提供元）から昭和大学医学部集中治療医学講座（提供先）へ研究者のみがアクセスできるオンラインストレージを通じて送付されます。

6．研究組織

研究責任者 昭和大学医学部集中治療医学講座 小谷 透

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学医学部集中治療医学講座 氏名：喜久山和貴
住所：142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号：03-3784-8518